

Y3-15

当院における褥瘡発生状況と入院時血清アルブミン値との関係についての検討

日本赤十字社 長崎原爆諫早病院

○富工 由貴、井手 優子、本多 倫子、
林田 恵美子、猪口 薫、齊藤 厚

【目的】褥瘡予防を行うためには、ハイリスク患者を早期より選別し対応することが重要である。患者の栄養状態は褥瘡の発生と深く関わり、その指標の1つとして血清Alb値が考えられる。今回、当院入院患者の入院時Alb値と褥瘡発生状況との関連について調査し、具体的な目標値等を検討した。

【対象/方法】2,008年7月～12月に入院した50歳以上の患者延べ808名を褥瘡無群（n＝787）と褥瘡有群（n＝21）の2群に分け、さらに褥瘡有群では入院時持込群と入院後発生群に分け、各群の入院時血清Alb値の比較を行った。

【結果】入院時の血清Alb値は、褥瘡の無い患者全体では平均3.56g/dlであったのに対し、褥瘡群全体では平均2.63g/dlであった。また褥瘡群のうち、入院時持込群では2.68g/dl、入院後発生群では2.56g/dlであった。褥瘡が発生した患者の最大値は3.4g/dl、最小値は1.7g/dlであった。褥瘡を持つ患者はそうでない患者に比べ、血清Alb値が約0.9g/dl低く、有意な差が見られた。また褥瘡のある患者のうち、入院時持込群と入院後発生群では有意差はなかったものの、入院後発生群の血清Alb値は低い傾向が見られた。

【考察】褥瘡予防の指標として、入院時血清Alb値は有効と考えられた。しかし、血清Alb値は個人差の幅も大きいため、他にも指標として併せて利用できるマーカーの検討が必要と思われた。

【まとめ】当院の入院患者の血清Alb値検討により、褥瘡ハイリスク患者選別のための具体的な目標値を把握することができた。この成績を褥瘡委員会で検討し患者の栄養状態を意識することによって、褥瘡発生率も改善につながっている。今後、他の指標やAlb値の経過等の検討を行い、さらに褥瘡ハイリスク患者へのより有効な栄養管理を図って行きたい。

Y3-16

姫路赤十字病院入院中に発生した褥瘡の実態調査

姫路赤十字病院 看護部¹⁾、
姫路赤十字病院 形成外科²⁾、
姫路赤十字病院 皮膚科³⁾、
姫路赤十字病院 栄養課⁴⁾、
姫路赤十字病院 医事課⁵⁾

○松本 由美子¹⁾、最所 裕司²⁾、山田 琢³⁾、
櫻井 美保子¹⁾、山田 佳世¹⁾、伊藤 千恵¹⁾、
泉野 円¹⁾、山根 由美子¹⁾、笹野 優子⁴⁾、
大谷 真代⁵⁾

平成14年度の診療報酬改定の際に、褥瘡対策未実施減算が新設され、その基準は褥瘡対策チームを設置すること、褥瘡対策に関する診療計画を作成し実施すること、褥瘡対策に必要な体圧分散マットレス等を適切に選択し使用する体制が整えられていることの3つがあげられた。平成18年度には褥瘡対策未実施減算は廃止されたが、入院基本料等の施設基準となり、褥瘡対策チームの設置されていること、褥瘡対策が行われていること、日常生活の自立度の低い入院患者につき褥瘡に関する危険因子の評価を実施することが基準としてあげられた。当院では平成14年度から褥瘡対策チームを設置し、活動してきた。各病棟をラウンドしハイリスク患者に褥瘡に関する計画を立案し、マットレスが適切に選択されているかなどを確認し、褥瘡予防に努めてきた。今回、平成20年5月から平成21年4月の間に当院入院中に褥瘡が発生した患者の実態を調査した。この間に褥瘡を保有していた患者は、71名でそのうち入院中に褥瘡が発生した患者は45名であった。発生部位は仙骨部が一番多く、大転子部、踵部の順であった。また、NPUAP分類2度の褥瘡がほとんどであった。入院中に治癒にいたったのは22名で、15名が治癒に至らないまま退院または転院となっていた。